

献 呈 の 辞

九州産業大学商学会は、平成19年3月末日をもって定年退職された久保田英夫教授、佐藤甫教授、ならびに畠中瞳教授の三先生のご功績を讃えるために「商経論叢」の記念号を編集し、商学会ならびに本学商学部に対する長年のご貢献に感謝の意を表し、謹んで献呈する次第です。

久保田教授は、昭和39年に早稲田大学大学院商学研究科修士課程を修了され、ドイツへの在外研修の後、昭和41年本学商学部の専任講師に就任され、爾来ご退任まで40年の長きにわたり教育と研究そして学部運営にご尽力されました。

先生のご担当科目は、「世界経済論」「貿易論」「中小企業経営論」等で、学部及び大学院でご指導を続けられました。また、研究面では、度重なるドイツでの研修や日本貿易学会や中小企業学会等々の重鎮として、学会活動においても広くご活躍をなさってこられました。先生は、高い理想と信念を持って、常に建設的なご意見を示してくださいましたことは我々の記憶に新しいところであり、心より感謝を申し上げます。

佐藤教授は、昭和38年に西南学院大学文学部専攻科をご卒業され、同年本学商学部の非常勤講師に就任されました、その後、神奈川大学の教授等をお勤めの後、平成元年に本学商学部の教授として再び就任されました。

先生のご担当科目は、「貿易商務論」「商業英語」「ビジネスコミュニケーション論」等で、学部及び大学院でご指導を続けられました。また、研究面では、日本貿易学会、日本商業英語学会および日本港湾経済学会等々の重鎮として、学会活動においても広くご活躍をなさってこられました。これらに加えまして、わが国における商業英語の普及啓蒙に大きくご尽力され、日本商工会議所検定試験の専門委員を30年の長きにわたり務めてこられましたことは特筆すべき社会貢献だと思います。先生は、常々学生を大切にすることの重要性をご指摘され、自らも温かく学生に接してこられました。昨今の大学改革の中でこの重要な視点を早くから自らのご実践を持って示してこられました。心より感謝を申し上げます。

畠中教授は、昭和39年に早稲田大学大学院商学研究科修士課程を修了され、幾多の教育経験や税理士資格取得の後、昭和45年4月に本学商学部専任講師に就任されました。

先生のご担当科目は、「税務会計論」「商業簿記」「簿記論」等で、学部及び大学院でご

指導を続けられました。また、研究面では、日本会計研究学会や日本財政学会の重鎮として、学会活動においても広くご活躍をなさってこられました。とくに、税務会計の研究では、内外に広く知られた方で、各地の大学等で広範なご指導に当たってこられました。先生は、常に着実かつ正確に物ごとを処し、非常な安心感と安定感をもって多くの信頼を得ておいででした。この長年のご貢献に対しまして、心より感謝を申し上げます。

本学は2010年に創立50周年を迎えますが、顧みますと三先生は共に本学の草創期よりその礎を築き、発展を支えてこられた方々であります。先輩方の素晴らしい教育活動と研究業績、そしてさまざまな社会貢献やスムーズな学部運営の上に、今日の本学商学部があることをしっかりとかみ締めてまいりたいと思っております。

今日、世間では2007年からを大学全入時代と呼び、多くの大学は多難な選別淘汰の時代に遭遇しておりますが、我々は、三先生の歩んでこられたご足跡から多くを学び、次の発展に生かすことが使命であり、ご指導およびご薫陶に対するお礼でもあると考えております。

三先生におかれましては、どうか今後はとくに健康にご留意され、さらなるご活躍をお祈り申し上げると共に、変わらず九州産業大学を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

平成19年9月

九州産業大学商学会長（商学部長）

秋山哲男